

校長の学校経営の方針が生徒の学校適応に及ぼす影響 —認知された教師の指導行動に注目して—

大久保 智生 ・ 日浦 奈津美*
(学校教育) (四国中央市立妻鳥小学校)

760-8522 高松市幸町1-1 香川大学教育学部

*799-0404 愛媛県四国中央市妻鳥町1488番地 四国中央市立妻鳥小学校

The Impact of the Principal's School Management Policies on Students' Adjustment

Tomoo Okubo and Natsumi Hiura*

Faculty of Education, Kagawa University, 1-1 Saiwai-cho, Takamatsu 760-8522

*Shikoku Chuo City Mendori Elementary School, 1488 Mendori-cho, Shikokuchuo-shi, Ehime Prefecture 799-0404

要 旨 本研究の目的は、校長の学校経営の方針が生徒の学校適応へ及ぼす影響について検討することであった。中学校3校の生徒237名、高等学校4校の生徒600名とそれぞれの学校の校長を対象に質問紙調査を行った。分析の結果、組織調和型経営と権威同調型経営に校長の学校経営の方針は分類され、校長の学校経営の方針によって、教師の指導行動と学校への適応感が異なり、教師の指導行動が学校への適応感に及ぼす影響の仕方が異なっていた。

キーワード 学校経営 学校適応 教師の指導行動 校長 生徒

問題と目的

今日の学校は社会の変化に柔軟に対応することが求められ、その中で校長のリーダーシップが求められるようになってきた。校長が変われば学校が変わる(久保田, 1997)といわれているが、校長の学校経営の方針が変わると教師だけでなく、生徒まで変わるのか、本研究では校長の学校経営の方針に焦点を当て、教師の指導行動および生徒の学校適応について検討していく。

学校経営の方針とは、学校の教育目標を効果的に達成するために経営活動が目指すべき手段的・条件整備的な内容を設定するものである(笠井, 2007)。近年の学校経営の方針は、従来の教職員と相談しながら問題や課題の解決を図るという経営から、教職員の考えや意見は尊重するが、それに左右されず、学校経営の最高責任

者としての校長のリーダーシップの発揮が問われる経営へと変わってきている。つまり、学校経営において校長の資質や能力が社会的に問われ、校長が学校経営をどのような方針で行うかが重要視されるようになってきたといえる。

校長には、法的に学校経営の方針の決定権がある。さらに、実質的な経営方針の決定権が校長にあることがこれまでに指摘されている。例えば、学校経営に関する研究において、校長の意識が経営方針を規定する直接的な要因であることが指摘されている(Maehrer, Midgley & Urdan, 1992; 名和・谷奥・松元・上原・古賀・岡崎・菅井・前原・樋口・岡本, 1982)。また、学校改善における実践研究でも、校長が経営方針を変えたことが学校の荒れの改善に関係していることが示されている(加藤・大久保, 2009)。したがって、学校経営の方針は法的に

も実質的にも校長に左右されるといえる。

校長によって決定された学校経営の方針が生徒に反映されるには、教師の協力が必要不可欠である(今津, 1992)。佐古(1995)は学校の組織特性が異なると教師の指導も異なってくることを示しているが、教師は学校経営の方針による組織特性の影響を受け、指導行動を変える可能性がある。経営方針の決定権が校長にあっても、学校は各教室で区切られていることや校長は生徒に直接指導する機会が少ないことなどから、学校経営の方針は教師の指導行動を通して間接的に生徒に影響していると考えられる(淵上, 2011)。また、岡田(2008)は生徒の適応に校則が影響していることを示しているが、校則は学校経営の方針が反映されていると考えられ、実際に生徒に対して校則についての指導を行うのは教師であることから、生徒の適応に学校経営の方針が間接的に影響していると考えられる。

これらの研究を勘案すると、学校経営の方針は教師の指導行動を媒介にして生徒の適応へ影響を及ぼしていることが推測される。学校経営の方針が教師行動に与える影響や、教師の指導行動が生徒の適応へ及ぼす影響について検討されているが、教師の指導行動を媒介として、学校経営の方針が生徒の適応へ及ぼす影響については検討されていないため、本研究では校長の学校経営の方針が生徒の適応へ及ぼす影響について、学校を分析単位として検討する。学校を分析単位とするのは、中高生にとって、学校の特徴によって適応が異なってくるからである(大久保, 2005; 加藤・大久保, 2005)。

以上を踏まえ、本研究の目的は、校長と生徒を対象とした調査を行い、校長の学校経営の方針が認知された教師の指導行動や生徒の学校適応に及ぼす影響について検討することである。具体的には、校長が学校の組織特性をどのようにとらえ、学校経営においてどのようなリーダーシップを発揮するかが学校経営の方針に深く関わっていることから、校長を対象に学校組織の特性の認知とリーダーシップを測定する。教師の指導行動については、教師自身が認

知する指導行動を測定すると、生徒が認知する指導行動とはズレが生じてしまうため、本研究では生徒に認知された教師の指導行動を測定する。生徒の適応については、岡田(2004)がレビューしているように数多く研究が行われているものの、学校を分析単位とした検討はあまり行われていない。大久保(2005)は学校を分析単位とした学校への適応感に関する研究を行っているが、学校の特徴については詳細に検討していないため、学校への適応感を測定し、校長の学校経営の方針という特徴が生徒の学校への適応感に及ぼす影響について検討する。

方法

1. 調査対象者と調査対象校

公立の中学校3校と高校4校の計7校において、それぞれの学校の校長と生徒を対象に調査を行った。校長は各学校それぞれ1名の計7名、生徒は中学生237名(男子136名、女子101名)、高校生600名(男子333名、女子267名)の計837名が調査に参加した。調査対象者の学校別の内訳は、公立A中学86名(男子47名、女子39名)、公立B中学88名(男子51名、女子37名)、公立C中学63名(男子38名、25名)、公立の共学校であるD高校190名(男子48名、女子142名)、公立の男子校であるE高校192名(男子192名)、公立の共学校であるF高校126名(男子44名、女子82名)、公立の共学校であるG高校92名(男子49名、女子43名)であった。

2. 質問紙の構成

(1) 校長用質問紙

校長を対象にした質問紙では、学校組織風土尺度と校長のリーダーシップ特性尺度を実施した。

①学校組織風土：藏田(1998)が作成した学校組織風土尺度17項目を用いた。この尺度は、「親和性」、「他律性」、「調和性」、「民主性」、「多忙性」の5つの下位尺度から構成されており、校長が認知している学校組織特性を測定する尺度である。回答形式は、「全くそうでない」から「非常にあてはまる」までの5件法である。

②校長のリーダーシップ特性：藏田(1998)

が作成した校長のリーダーシップ特性尺度22項目を用いた。この尺度は、「権威依存」、「強力」、「合意」、「他者比較」、「合理的」、「校長優位」の6つの下位尺度から構成されており、校長のリーダーシップを測定する尺度である。回答形式は「全くそうでない」から「非常にあてはまる」までの5件法である。

(2) 生徒用質問紙

生徒を対象にした質問紙では、認知された教師の指導行動尺度と学校への適応感尺度を実施した。

①認知された教師の指導行動：田崎・桑原(2000)が作成した学級担任教師の指導行動尺度30項目を用いた。この尺度は、「生活・学習に対する規律・指導」、「授業に対する厳しさ」、「学級活動の促進」、「配慮」、「親近性」の5つの下位尺度から構成されており、生徒が認知する教師の指導行動を測定する尺度である。回答形式は、「全くあてはまらない」から「非常によくあてはまる」までの5件法である。

②学校への適応感：大久保(2005)が作成した適応感尺度30項目を用いた。この尺度は、「居心地の良さの感覚」、「課題・目的の存在」、「被信頼・受容感」、「劣等感の無さ」の4つの下位尺度から構成されており、個人が環境と適合しているときの感覚を測定する尺度である。回答形式は、「全くあてはまらない」から「非常によくあてはまる」までの5件法である。

結果と考察

1. 校長の学校経営の方針の特徴の検討

まず、A中学からG高校の校長7名の学校経営の方針の特徴を探るため、学校組織特性尺度と校長のリーダーシップ尺度の得点に基づいてクラスター分析を行った。その結果、大きく2つの学校群に分類された。A中学、E高校、G高校を第1クラスターとし、B中学、C中学、D高校、F高校を第2クラスターとした。

次に、2つの学校群のそれぞれの学校経営の方針の特徴を検討するため、学校組織風土尺度と校長のリーダーシップ尺度の平均値を算出した(Table 1, Table 2)。学校組織風土尺度で

Table 1 学校経営の方針別の学校組織風土尺度の平均値

	組織調和型経営	権威同調的経営
親和性	3.400 (2.000)	3.775 (2.630)
他律性	2.417 (2.082)	1.875 (1.291)
調和性	3.000 (.000)	2.250 (.500)
民主性	3.667 (.577)	3.500 (.577)
多忙性	3.667 (1.526)	4.000 (.8164)

カッコ内は標準偏差

Table 2 学校経営の方針別の校長のリーダーシップ尺度の平均値

	組織調和型経営	権威同調的経営
権威依存	3.400 (2.646)	3.900 (1.291)
強力	3.867 (.577)	4.450 (2.754)
合意	3.533 (1.528)	4.500 (1.732)
他者比較	3.000 (1.732)	3.917 (.957)
合理的	3.222 (1.155)	4.333 (1.414)
校長優位	3.000 (.000)	4.750 (.500)

カッコ内は標準偏差

は、「他律性」は校長が教師同士の協力の重要性を意識していることを指し、「調和性」は学校に関する決定事項は職員会議を通してから決定することを指している。これらの値が高いことから、第1クラスターに含まれる学校の校長は教師と相談しながら経営を行っていると考えられる。したがって、第1クラスターに含まれるA中学、E高校、G高校は、教師の意見を取り入れながら学校経営を行っていると考えられることから、組織調和型経営の学校と定義した。

校長のリーダーシップ尺度では、「権威依存」

は上位権力（都道府県・市町村の教育委員会など）に依存し経営することを指し、「他者比較」は校長が他の学校の校長の経営と自身の経営を比較しながら経営を行うことを指し、「校長優位」とは学校に関する事柄は断固として校長が対処し責任を持つことを指している。これらの値が高いことから、第2クラスターに含まれる学校の校長は学校経営の方針を決定する際に、上位権力に依存し、他の学校の校長の経営方針と比較しながら、教師と相談せずに経営を行っていると考えられる。したがって、第2クラスターに含まれるB中学、C中学、D高校、F高校は上位権力や他の学校の校長を意識し、それに同調しながら経営を行っていると考えられることから権威同調型経営と定義した。

2. 学校経営の方針による認知された教師の指導行動と学校への適応感の差の検討

学校経営の方針による認知された教師の指導行動と学校への適応感の差を検討するため、学校経営の方針の特徴（組織調和型経営、権威同調型経営）を独立変数、認知された教師の指導行動と学校への適応感を従属変数としたt検定を行った（Table 3, Table 4）。その結果、認知された教師の指導行動では、「生活・学習に対する規律指導」（ $t = 7.402$, $df = 724$, $p < .001$ ）、「授業に対する厳しさ」（ $t = 8.949$, $df = 726$, $p < .001$ ）、「学級活動の促進」（ $t = 3.594$, $df = 725$, $p < .001$ ）、「熱心な学習指導」（ $t = 4.514$, $df = 724$, $p < .001$ ）、「配慮」（ $t = 2.615$, $df = 723$, $p < .001$ ）において、権威同調型経営の学校の生徒が組織調和型経営の学校の

Table 3 学校経営の方針別の教師の指導行動尺度の平均値とt検定結果

	組織調和的経営	権威同調的経営	t値
生活・学習に対する規律・指導	14.046 (3.164)	15.850 (3.398)	7.402***
授業に対する厳しさ	16.482 (3.895)	19.000 (3.689)	8.949***
学級活動の促進	16.212 (3.741)	17.189 (3.588)	3.594***
熱心な学習指導	15.788 (3.408)	16.925 (3.380)	4.514***
配慮	15.804 (4.347)	16.651 (4.374)	2.615**
親近性	15.493 (4.474)	14.972 (4.524)	1.560

カッコ内は標準偏差

** $p < .01$ *** $p < .001$

Table 4 学校経営の方針別の学校への適応感尺度の平均値とt検定結果

	組織調和型経営	権威同調型経営	t値
居心地の良さの感覚	39.440 (8.046)	38.386 (7.503)	1.915 [†]
課題・目的の存在	24.953 (4.799)	24.994 (5.004)	.122
被信頼・受容感	17.734 (3.981)	17.154 (4.166)	2.021*
劣等感の無さ	19.304 (3.637)	19.662 (4.057)	1.324

カッコ内は標準偏差

[†] $p < .1$ * $p < .05$

生徒よりも有意に高かった。学校への適応感では、「居心地の良さの感覚」(t=1.915, df=809, p<.1)において、組織調和型経営の学校の生徒が権威同調型の学校の生徒よりも有意に得点が高い傾向があり、「被信頼・受容感」(t=2.021, df=810, p<.05)において、組織調和型経営の学校の生徒が権威同調型経営の学校の生徒よりも有意に高かった。

認知された教師の指導行動では、「生活・学習に対する規律・指導」,「授業に対する厳しさ」,「学級活動促進」,「熱心な学習指導」,「配慮」において権威同調型経営の学校の方が高かった。「生活・学習に対する規律・指導」,「授業に対する厳しさ」,「学級活動促進」,「熱心な学習指導」はPM式指導類型において指示的,外圧的態度であるP行動とされる指導行動である(田崎・桑原, 2000)。したがって、権威同調型経営の学校では教師の指導を指示的, 外圧

的態度であると認知している生徒が多いと考えられる。また、権威同調型経営の学校ではP行動の他に「配慮」においても、組織調和型経営よりも高かった。「配慮」はPM式指導類型において生徒が教師に親近感をもつM行動とされる指導行動である。このことは、権威同調型経営の学校の生徒のほうが組織調和型経営の学校よりも教師に厳しく指導されていると認知しているだけでなく、厳しい指導に伴う配慮も認知していることを意味しているといえる。

学校への適応感では、「居心地の良さの感覚」,「被信頼・受容感」において、組織調和型の学校の方が高かった。このことは、校長の学校経営の方針が生徒の学校適応にまで影響を及ぼしていることを示唆している。学校の特徴が生徒の適応に影響を及ぼしていることを大久保(2005)は示しているが、校長の学校経営の方針も生徒の学校適応に影響する要因として今後

Table 5 組織調和型経営の学校における教師の指導行動と学校への適応感との関連

	居心地の良さの 感覚	課題・目的の 存在	被信頼・受容感	劣等感の無さ
生活・学習に対する規律・指導	-.098	.043	-.012	-.153*
授業に対する厳しさ	.001	-.120 [†]	-.133 [†]	-.017
学級活動の促進	.210**	.079	.098	.014
熱心な学習指導	.066	.139 [†]	-.113	.007
配慮	.088	.108	.267**	.197*
親近性	-.043	.052	-.023	-.101
重相関係数	.257**	.290***	.224**	.202*

値は標準偏回帰係数 †p<.1 **p<.05 ***p<.001

Table 6 権威同調型経営の学校における教師の指導行動と学校への適応感との関連

	居心地の良さ の感覚	課題・目的の 存在	被信頼・受容感	劣等感の無さ
生活・学習に対する規律・指導	-.035	-.022	-.086	-.042
授業に対する厳しさ	.093	.106 [†]	.038	.030
学級活動の促進	.053	.087	.066	.024
熱心な学習指導	.197**	.107 [†]	.166*	-.035
配慮	.110	.292***	.155 [†]	.118
親近性	-.080	-.800	.020	-.114
重相関係数	.337***	.416***	.313***	.128

値は標準偏回帰係数 †p<.1 **p<.05 ***p<.001

検討する必要があるといえる。

3. 学校経営の方針別の認知された教師の指導行動が学校への適応感に及ぼす影響の検討

学校経営の方針別に認知された教師の指導行動が学校への適応感の各側面にどのように影響しているかを検討するため、学校への適応感を目的変数、認知された教師の指導行動を説明変数として重回帰分析を学校経営の方針別に行った (Table 5, Table 6)。

その結果、組織調和型経営の学校では、「居心地の良さの感覚」において、「学級活動の促進」($\beta = .210, p < .05$) から正の影響がみられた。「課題・目的の存在」において、「授業に対する厳しさ」($\beta = -.120, p < .1$) から負の影響がみられ、「熱心な学習指導」($\beta = .139, p < .1$) から正の影響がみられた。「被信頼感・受容感」において、「授業に対する厳しさ」($\beta = -.133, p < .1$) から負の影響がみられ、「配慮」($\beta = .267, p < .01$) から正の影響がみられた。「劣等感の無さ」において、「生活・学習に対する規律・指導」($\beta = -.153, p < .05$) から負の影響がみられ、「配慮」($\beta = .197, p < .05$) から正の影響がみられた。

権威同調型経営の学校では、「居心地の良さの感覚」において、「熱心な学習指導」($\beta = .197, p < .05$) から正の影響がみられた。「課題・目的の存在」得点において、「授業に対する厳しさ」($\beta = .106, p < .1$)、「熱心な学習指導」($\beta = .107, p < .1$)、「配慮」($\beta = .292, p < .001$) から正の影響がみられた。「被信頼感・受容感」において、「熱心な学習指導」($\beta = .166, p < .05$)、「配慮」($\beta = .155, p < .1$) から正の影響がみられた。

「居心地の良さの感覚」に対して、組織調和的経営の学校では「学級活動の促進」が正の影響を及ぼしていたが、権威同調型の学校では「熱心な学習指導」が正の影響を及ぼしていた。「課題・目的の存在」に対して、両方の学校とも「熱心な学習指導」が正の影響を及ぼしており、組織調和型の学校では、「授業に対する厳しさ」が負の影響を及ぼしていたが、権威同調型の学校では「授業に対する厳しさ」と「配慮」

が正の影響を及ぼしていた。「被信頼・受容感」に対して、両方の学校とも「配慮」が正の影響を及ぼしており、組織調和型の学校では、「授業に対する厳しさ」が負の影響を及ぼしていたが、権威同調型の学校では「熱心な学習指導」が正の影響を及ぼしていた。「劣等感の無さ」に対して、組織調和型の学校では、「授業に対する厳しさ」が負の影響を及ぼしており、「配慮」が正の影響を及ぼしていた。これらの結果から、概して、組織調和型の学校では学習面以外の指導が生徒の適応感に関連するが、権威同調型の学校では学習面の指導が生徒の適応感に関連することが示唆された。特に、授業に対する厳しさは、組織調和型の学校と権威同調型の学校では異なる関連を示していることから、P行動は校長の学校経営の方針によって形成される学校全体の雰囲気によって意味が変わってくるといえる。また、配慮は組織調和型の学校と権威同調型の学校ともに生徒の適応感に関連していることから、M行動は生徒の適応感の主要な要因であるといえる。

総合考察

本研究では学校経営の方針が生徒の適応感へ及ぼす影響について検討を行った。まず、校長を対象にした質問紙調査に基づいて分類を行った結果、組織調和型経営と権威同調型経営に校長の学校経営の方針は分類された。次に、学校経営の方針によって認知された教師の指導行動と学校への適応感を比較した結果、校長の学校経営の方針によって、生徒の認知する教師の指導行動と学校への適応感が異なっていた。最後に、学校経営の方針別に、生徒の認知する教師の指導行動が学校への適応感に及ぼす影響について検討した結果、学校経営の方針によって生徒の認知する教師の指導行動が学校への適応感に及ぼす影響の仕方が異なっていた。以下において、学校経営の方針ごとに考察を行い、本研究の結果のまとめと今後の課題について論じる。

1. 組織調和型の学校の特徴

組織調和型経営の学校は、「他律性」と「調

和性」が高いことから、組織調和型経営の学校の特徴として、校長が教師と連携して経営を行っていることが挙げられる。つまり、組織調和型経営の学校の校長は教師と良い関係を築き、学校経営に教師の意見を取り入れることを重要視していると考えられる。さらに、組織調和型の学校では生徒の学校への適応感が高く、学習面以外の指導が生徒の適応感に関連していた。

こうした結果から、組織調和型の学校は教師の指示的、外圧的態度を嫌う自律的な雰囲気があるといえる。そして、校長は教師と良い関係を築くことを重要視しているため、教師の指導行動も同様に学習面だけに集中していないと考えられる。さらに、組織調和型の学校では生徒の学校への適応感が高く、学習面以外の指導が生徒の適応感に関連していることから、生徒の中でも学習面以外も重視され、学習面以外の指導も学校適応の規定要因になっていると考えられる。したがって、組織調和型の学校経営の方針は、学校全体で良い人間関係を築くことを重要視する雰囲気が形成されることにつながる。

2. 権威同調型の学校の特徴

権威同調型経営の学校は、「権威依存」と「他者比較」、「校長優位」が高いことから、権威同調型経営の学校の特徴として、校長が上位権力に同調し、他の学校の校長の経営方針と比較しながら経営を行っていることが挙げられる。つまり、権威同調型経営の学校の校長は上位権力に従うことと他の学校の校長と比較することを重要視し、学校経営を行っていく中で教師に相談する機会は少ないと考えられる。さらに、権威同調型経営の学校では、教師の指導行動の中でもP行動が高く、学習面の指導が生徒の適応感に関連していた。

こうした結果から、組織調和型の学校は教師の指示的、外圧的態度を良しとする他律的な雰囲気があるといえる。そして、校長が上位権力や他の学校の校長と自分の学校を比較する際に学業を基準にしており、学習面を重視しているため、教師の指導行動も同様に学習面に集中し

ていると考えられる。さらに、教師の指導行動の中でもP行動が高く、学習面の指導が生徒の適応感に関連していることから、生徒の中でも学習面が重視され、学習面が学校適応の規定要因になっていると考えられる。したがって、権威同調型の学校経営の方針は、学校全体で学習面を重要視する雰囲気が形成されることにつながる。

3. まとめと今後の課題

本研究の結果をまとめると、校長の学校経営の方針は教師の指導を通して、生徒に影響を与えているということが挙げられる。そのため、校長への実践への示唆としては、学校の組織特性や自らのリーダーシップのスタイルをふりかえる必要があり、自らの決定する学校経営の方針によって雰囲気が変わり、教師だけでなく、生徒の適応にまで影響することを自覚する必要があるといえる。さらに、学習面を重視することは大事なことだが、過度になれば、学校に適応できなく生徒も多くなることを認識しておく必要があるといえる。また、教師への実践への示唆としては、教師も自らの指導行動をふりかえる必要があり、特にどのような雰囲気で指導をしているのかを認識する必要があるといえる。

本研究の今後の課題は2点考えられる。1点目は、本研究では教頭の意識を検討していないことである。校長と教師の間には教頭がおり、教頭は、学校経営の方針について校長に助言をしたり、学校の経営方針に従って教師に助言したりしている(天野, 2017)。したがって、今後は教頭が校長や教師にどのような関わりをしているかについても検討する必要があるといえる。2点目は、本研究では、各学校のもともとある伝統や文化を考慮していないことである。学校経営の方針は、学校の伝統や文化の影響も受けることから、校長が学校経営の方針を決定する際にこれまでの伝統や文化を重要視しているかどうかを問う必要性があるといえる。

参考文献

天野智裕(2017). 若手教員の指導力向上に関する学

- 校経営の事例的研究：若手教員育成における小学校教頭の役割 三重大学教育学部研究紀要, 68, 369-374.
- 淵上克義 (2011). 学校は、校長のリーダーシップ次第であろうか:学校組織作りにおける校長のリーダーシップについて 大久保智生・牧郁子 (編) 実践をふりかえるための教育心理学 ナカニシヤ出版 Pp.187-199.
- 今津孝次郎 (1992). 学校組織文化と教師 名古屋大学教育学部紀要, 39, 35-50.
- 笠井稔雄 (2007). 学校経営計画の在り方に関する実証的研究:「学校マニフェスト」としての「学校経営計画 (校長が示す基底編)」を 北海道教育大学紀要, 58, 221-236.
- 加藤弘通・大久保智生 (2005). 学校の荒れと生徒文化の関係についての研究:〈落ち着いている学校〉と〈荒れている学校〉では生徒文化にどのような違いがあるか 犯罪心理学研究, 43, 1-16.
- 加藤弘通・大久保智生 (2009). 学校の荒れの収束過程と生徒指導の変化:二者関係から三者関係に基づく指導へ 教育心理学研究, 57, 466-477.
- 久保田武 (1997). 校長がかわれば学校が変わる 夏目書房
- 藏田幸三 (1998). 「学校改善と学校の個別性についての調査—校長からみた学校組織風土の分析—」の報告 東京大学大学院教育学研究科教育行政学研究室紀要, 17, 50-72.
- Maehar, M. L., Midgley, C., & Urdan, T. (1992). School leader as motivator. *Educational Administration Quarterly*, 28, 410-429.
- 名和弘彦・谷奥彰・松元健治・上原貞雄・古賀一博・岡崎公典・菅井直也・前原健三・樋口京子・岡本徹 (1982). 学校経営における意思決定の態様とその規定要因:第一次調査報告 (事例研究) 日本教育経営学会紀要 24, 15-28.
- 大久保智生 (2005). 青年の学校への適応感とその規定要因:青年用適応感尺度の作成と学校別の検討 教育心理学研究, 53, 307-319
- 岡田有司 (2004). 学校適応研究における諸問題:理論と研究方法の側面から 中央大学大学院研究年報, 34, 213-229.
- 岡田有司 (2008). 学校生活の下位領域に対する意識と中学校への心理的適応:順応することと享受することの違い パーソナリティ研究, 16, 388-395.
- 佐古秀一 (1995). 学校組織特性と教師の指導観の対応関係に関する研究 鳴門教育大学研究紀要, 10, 79-91.
- 田崎敏昭・桑原力 (2000). 中学生における教師のリーダーシップ認知, 学級モラル及び 自己効力感と挙手行動 佐賀大学文化教育学部研究論文集, 5, 1-16.